

来年4月からの会費改定を承認

保険医協会 第3回定時社員総会

茨城県保険医協会は5月28日、土浦市内で第3回定時社員総会を開催した。委任状を含む24人の代議員による議決で「2016年度会務報告」「16年度決算報告及び会計監査報告」「17年度会務方針」「17年度予算」「会費額改定の件」を承認した。

これによって、会費額は1年後の18年4月より開業医会員(管理者を含む)の月額会費が現行の3,500円から4,500円(年額では42,000円から54,000円)に改定されることになった。勤務医会員と70歳以上の開業医会員(月3,000円)及び準会員の会費(月2,500円)は据え置かれる。

宮崎三弘会長は総会の挨拶の中で、「会費額改定については、この1年かけて保険医新聞紙上で情報提供し、アンケート調査を行ってき

た。協会の健全な活動を継続するためには収支を安定させることが不可欠であり、23年間据え置いてきた会費を改定することにした。これから先も経費の削減に努めるが、活動が広く認知されるように全県的に活動を広げ、事業を充実させて、会員

を増やしてきたい」と述べた。

会務方針には、市民とともに進める医療制度の改善、コモンディーズの診療レベルの向上をめざす研究会等の活動、保険診療・審査・指導の対策強化、組織の拡大と発言力アップなどが掲げられた。

明治維新以来変わらぬ問題の構図

本田宏氏が記念講演

総会後は本田宏氏(NPO 法人医療制度研究会副理事長・元済生会栗橋病院院長補佐)による講演会が行われた。本田氏は、日本では、医師不足や医療崩壊、格差拡大など数多くの問題が同時進行しており、今までそれぞれの分野で、多くの人々が一所懸命問題解決のために努力してきたが、それらの根底にある明治維新以来綿々と続くクレプトクラシー(収奪・盗賊政治)を一致団結して打破しなければ何も変わらないと述べた。

明治維新は、薩長が皇室を錦の御旗に利用して徳川幕府から政権を奪取したクーデター。戦後は錦の御旗を米国に変えて、一部の政治家や官僚が自身の利益を最大化して

いる。この日本の体制を米国議会筋はデモクラシーでなくクレプトクラシー(収奪・盗賊政治)と見ているという。

その上で、本田氏は、国民が「諦める」ことを止めて問題の本質を「明らかにする」ことが第一歩だとして、そのために4つのポイントを示した。①群盲象をなでるはダメ、全体像を把握する、②データはグローバルスタンダードと比較する、③温故知新、歴史に学ぶ、④Follow the money(金の流れを追えば、一体誰が何を目的にその政策を強行したいのかが見えてくる)。本田氏は、選挙による日本初の市民革命が必要だと述べた。



講演会にはチラシで知ったと一般市民も参加(円内は講演する本田宏氏)